

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議で運営理念5項目の確認をし、理念の共有に努めている。また、職員玄関、ユニット入口に理念を掲示して意識できるようにしている。	理念は職員入口と各ユニット入口付近に掲示し、常に目に触れ確認している。開設3年目を迎え、管理者はじめ職員は、法人理念とともに、事業所の理念を基に個人目標を立案し、各職員は日々のケアの中で実現できるよう工夫しながら支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	本来であれば、自施設の地域交流スペースで地域の方のクラブ活動や、集いの場となるような場所としての利用や地域の行事等への参加を考えていたが、開設時からの新型コロナウイルス感染予防対策の為、行えていない。	事業所開設とコロナ禍が重なり、管理者が思うような形で進めることが難しい状態を経験してきたが、5類移行後、家族との受診等外出や面会など少しずつ地域との交流へ歩み始めた。今年の敬老会行事にボランティアの演奏会予約をいただいたことや、近所の学童クラブとの少しずつ続けた交流などを大切に、地域とのつながりを増やしていけるよう支援に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人のキャリアパスの方針から認知症実践者研修への積極的な受講申し込みを行い、2022年度は2名受講した。また、新規入居の申し込みの中で相談を受け、入居前の家族支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、事業所の状況報告と意見交換を行っている。新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、文書開催と対面開催で行った。全入居者家族にレジュメ、報告書の郵送を行っている。対面開催時は入居者の方も参加していただいている。職員の顔と名前が分からないためネームプレートを身に付けて欲しいと家族より意見あり、玄関に職員写真を掲示した。また、広報誌に職員紹介の記事を掲載した。議事録は職員にも回覧し、共有している。	運営推進会議は書面開催の時もあったが、2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者からも毎回2名ほど参加できるよう支援している。また、関係諸機関への案内とともに全家族に開催案内し、開催後の記録も関係者に送付している。全家族にも会議記録を配布している。会議での意見は、職員と検討しながら、対応し、サービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員に運営推進会議の構成員となっていただいている。毎回会議に参加していただき、情報交換している。	運営推進会議には、地域の包括支援センター職員が参加しいろいろな相談にも対応してもらっている。区役所担当者とは必要時に連絡を取りあい相談できる協力関係はできている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての外部研修への参加、法人内では年2回学習会を実施している。拘束となる玄関の施錠については防犯上施錠はしているが、内側からは入居者の方も開けられるようにしている。3ヶ月に1回法人内の身体拘束適正化委員会を開催している。	法人内では身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催して事業所からも参加して、情報共有の記録に残しており、マニュアルを整備している。研修は法人内近隣の特別養護老人ホームで合同で行われている。職員は内容回覧の押印をし、参加記録が残されている。	定期的な研修を継続して実施しており、職員の意識づくり等への配慮が見られ、身体拘束防止や虐待防止を確実に実践していこうとする様子が感じられる。今後は参加したこと、教材資料で学んだことへの確認印と、それらの研修で何を学び、どのように感じ、今後自らのケアにどう生かしていこうかを考えたかなど、参加で得た事柄を自ら文章化し、記録に残すことが望まれる。研修参加で学んだことが、個別にファイルされ、ケアに生かされることを期待したい。
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての外部研修への参加、法人内では虐待の芽チェックリスト等を活用し、年2回学習会を実施している。3ヶ月に1回法人内の虐待防止検討委員会を開催し、状況把握に努めている。	高齢者虐待防止指針よりマニュアル作成し虐待検討委員会や外部・内部の研修会にも参加を記録に残している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度利用の入居者はいないが、今後のために積極的に研修等へ参加し、知識を深めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に契約書と重要事項説明書の内容を入居者、家族と読み合わせをし、説明することで同意を得ている。また、世帯分離等に関する区役所の手続きなどの疑問点や心配事についても確認し、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望は日々の生活の中で確認し、散歩や外出をしたり、食べたいものは行事等で取り入れ、反映させている。運営推進会議や物品の持参等でご家族が来所された際や電話、毎月のお便りで施設での様子を伝えると同時にご家族の意見や要望を伺い、ケアプランに反映させたり、法人会議で報告、検討し、運営に反映させている。投書箱を設けている。	管理者はじめ職員は、コロナ禍の期間毎月の事業所からの「おたより」とともに利用者の写真を撮って同封し、日常生活が少しでも分かりやすいように配慮している。運営推進会議の開催にあたり、全家族へ開催の通知と意見、要望等をお願いをしている。また、受診での外出の送迎時などいろいろな時に声掛けし意見をうかがえるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チャレンジシートで自己目標を立て、育成面接の場で意見や提案を聞く機会を設けている。また、ユニット会議では、毎月職員からだされた議題を検討している。必要に応じて代表者を含めた法人会議等で報告し、対応を検討している。	日々の業務の中で出てきた意見や提案を大切に考えている。また、いろいろな担当、係からの意見もある。管理者は毎月のユニット会議などで出た職員からの意見などを法人の会議で報告し事業所の現状を伝え解決につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	チャレンジシートで自己目標を立て、育成面接を実施している。また、施設内の係も分担している。代表者を含めた法人会議を毎月実施し、勤務状況、労働環境に関わる課題を明らかにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	チャレンジシートの活用、育成面接で職員の状況を把握し、法人内学習会の開催、外部研修受講への機会を確保している。また自己研修の助成を行っている。新たに2名が介護福祉士資格を取得した。代表者を含めた法人会議で育成や研修を議題にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋葉区内グループホームの管理者ネットワークがあるが、コロナ禍で交流の機会がなかった。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族からの聞き取りや自宅訪問等で情報収集し、安心して生活していただけるよう職員同士で情報共有している。職員、他入居者との関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談の時点から、家族の不安や困りごと、要望を伺っている。入居後はご家族に安心していただけるよう、3～4日くらいのペースで生活の様子や食事内容等を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族をはじめ、担当ケアマネジャーからの情報や今までのサービス内容を踏まえたうえで、本人、家族が望む暮らしに近づけるための支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事と出来ない事をしっかりアセスメントして、自分で出来る事は自分で行っていただく、暮らしの中で役割をもって生活していただくことを大切にしている。入居者同士、職員と入居者一人一人との関係作りも大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、入居者の様子を写真付きのお便りで家族に伝えている。その他、電話や受診時の付き添いや日用品の補充等で来所した際に、施設での様子や本人の困りごと等の情報を共有し、家族との関係作りをしている。	コロナ禍で家族との交流が難しいときは特に利用者の日常生活の様子がわかるような写真を添えて毎月のお便りでお知らせをするように努めていた。また家族からの運営推進会議などへの参加により、共に支えあう関係が出来るよう管理者はじめ職員は努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会制限や外出制限等をせざるを得なかったが、家族の協力を得ながら入居前からの馴染みの医院への受診を継続している。また、馴染みの地域へのドライブなど工夫して取り組んでいる。	開設時からコロナ禍で難しかったが、事業所には地域交流のためのホールがあり、家族との受診のための外出時、買い物や食事など生活の範囲が広がりがみられる。今後についても利用者それぞれのなじみの人や場所への繋がりを継続できるよう家族とも相談しながら進めたいと職員と色々話し合っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの入居者の性格や関係性を配慮して食席を決めたり、会話の仲介等を行い、入居者同士の良好なコミュニケーションが図れるようにしている。他入居者を気遣ったり、助けたりする関係性ができている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	2名が退所されたが、入院中も家族や入院先の相談員と連絡を取り、状況把握を行った。次の施設入所に関する情報提供を行うなど相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の面談では本人や家族の思いや意向を聞き取り、職員で情報共有している。入居後は日々の暮らしの中での会話や行動、表情などから本人の思いや意向をケアプランや暮らしに反映させている。	日々の暮らしの中で、大切にしているものや考え方などできるだけ、いろいろな会話や行動・表情から暮らし方の希望ややり方などをお聞きするようにし、入居後の生活に反映できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談や契約時等に本人や家族から聞いた情報をフェイスシートに記入し、把握している。24時間シートを活用し、一人一人の生活リズムの把握に努めている。	入居前の話を伺う時は、リラックス出来るように、配慮しながら、身近な生活歴から聞き本人の思いや意向を窺うヒントを得ている。家族と話し合い、入居希望がある面接時に、事業所に来所してもらい施設を見てもらいながら本人が納得する形で話を伺い、無理のない形で把握している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間シートを作成し、一人一人の現状把握に努めている。また日々の介護記録、申し送り等で現状の把握をしている。ケアプランと同様6か月ごとに、または変化があった場合は24時間シートの更新をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者が毎月モニタリングを行っている。ケアマネージャーと居室担当者が中心となり、ケアプランを作成している。6か月ごとにケアカンファレンスを開催して本人や家族の意向や思い、課題を反映させ、見直しを行っている。	入居前の本人・家族の事前面談より在宅での生活や希望等を伺い、本人が望む生活が継続できるようプランに反映させている。また、体重減少や歩行困難など変化が見られ、介護計画と現状がそぐわない場合は、モニタリングを行い、本人・家族の想いや意見を聞き、計画作成者担当者と職員でカンファレンスを行い修正変更を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、連絡ノート等で日々の様子やケアの実践を記録し、情報共有に努めている。居室担当職員は毎月モニタリングを行い、ケアカンファレンスで介護計画の見直しを行っている。月に1回のユニット会議時もケアの検討を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院でのパーマや本人の状態の変化や家族のニーズに合わせ職員全体で検討し、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためほとんど行っていないが、地域の理容サークルの訪問理容サービスを利用している。入居前からの訪問マッサージを継続していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は家族協力のもと、今までのかかりつけ医を継続している。受診に必要な情報については受診時に家族へ口頭や文書で伝えている。受診後の結果は記録し、職員で情報共有している。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族協力の下、受診は行われ、口頭や書面『外出・通院・外泊届け』に必要な情報を記載しコピーを渡し、主治医との連携を図っている。受診結果は、個々のファイルに綴じられるとともに業務日誌記録、回覧と職員で情報共有している。また、服薬はダブルチェックで行なわれ、薬剤師が薬を届ける際に情報交換するなど適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師は不在。訪問看護事業所との連携は行っていない。協力施設である特養医務室の看護師と随時相談し、対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と計画作成担当者が連携を図り、情報交換に努めている。また、家族との連絡や相談にも対応している。運営推進会議に協力病院の総看護師長に参加していただき、関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所として看取りを行う方針を持っていない旨を本人・家族へ契約時に説明をしている。グループホームでの生活が困難となった場合は、家族の意向を確認しながら協力病院、協力施設等と連携を取りながら支援している。	契約時に「重度化対応、終末期ケア対応方針」について、事業所としての役割や機能を十分に伝えるとともに看取りを行う方針がない旨を本人・家族へ説明し同意を得ている。利用者のペースで食事が摂れなくなる、座位入浴が難しくなるなど生活場面で、対応が難しくなったときに全体で話し合い、家族の意向を確認しながら、協力病院、協力施設と連携を図りチームとして支援できるよう体制を整えている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実際に急変や事故発生時の対応より、夜間の対応マニュアルやフローチャートの見直しを行った。ヒヤリハット発生後の対応についても再確認している。AEDを設置している。	ヒヤリハット・事故報告フローチャートを活用し実際の急変や事故発生時の対応を職員の意見をまとめマニュアルの改訂が行われている。非常時電話連絡網、AED、秋葉消防署からの「救急要請時のアクションカード」や「安全管理・事故、急変時対応」は、共有スペースである食堂・居間に設置されている。法人が実施するAED研修は、新人が必ず参加し、職員全員が習得するなど緊急時や夜間でも利用者の安全を確保できるよう体制を整えている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを策定し、BCPは策定途中。消火、避難、通報訓練実施し、設備の自主点検を実施している。水害、地震訓練は年1回開催し、どの訓練も入居者参加型で実施している。	災害対策マニュアル、防火対策マニュアルは整備され、消化、避難、通報訓練が実施されている。水害を想定した訓練では、入居者も参加し隣接する施設への避難訓練が行われ、地震の際は、避難指定先である施設前の小学校への避難訓練が行われている。3日分の食料や飲料水が備えられている。ハザードマップは事務室脇に貼られ職員がいつでも確認でき意識付けになっている。	今後は、災害時に誰が、いつ、何をするか等、各担当者をあらかじめ決め、必要な物資、備品が整理準備され、持ち出し方法も含め文章化されるとともに職員全員が共有し、地域社会と連携し利用者の安全を守り避難生活が継続できるよう、より具体的な事業継続計画(BCP)が作成されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の学習会で不適切なケアについて自己チェックを実施し、グループワークでは解決方法を検討し、一人一人の人格を尊重することについて考える機会を設けた。	プライバシー保護のマニュアルがあり、本人の気持ちを尊重しさりげない声掛けを心がけるとともに入浴、排泄等、プライバシーに配慮し、その人らしさを尊重した支援に努めている。日々の記録はパソコンに入力し情報を管理している。また、1年に1度具体例を挙げて個人情報の勉強会が行われている。	今後は、利用者との会話のみならず、利用者と家族間での共有する話題であっても、利用者と家族との関係や必要性を考慮し話をするなど、利用者一人ひとりの立場の違いにも視点を持ち、プライバシーの理解を深め、安心して生活ができる環境を期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の関わりの中で、本人の思いや希望を引き出す努力をしている。職員からの一方的な声掛けにならないよう、自己決定できるような声掛けを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日の体調や精神状態を把握しながら、可能な限り本人のペースや希望を大切にしながら関わりを持つようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の利用サークルと契約し、訪問理髪を活用している。本人や家族の希望に合わせて散髪期間を決めている。カラー、パーマの希望がある場合は本人、家族と相談し、地域の美容室を利用している。入浴時の着替えはご自分で着たい衣類を選んでいただいている。自宅で使用していた化粧水や乳液を使用していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配を利用しているが、食事の準備や片付け等、出来る範囲で入居者と一緒に行っている。季節の食材を取り入れたり、行事食など楽しめる食事の提供を行っている。また、入居者の要望を聞きながらおやつを提供を行っている。	委託業者の食材利用であるが、季節の食材やくだものなど利用者の要望を取り入れ調理もされている。利用者もエプロン姿で、お味噌汁やおかずの盛り付けを行い、利用者同志会話をしながら配膳するなど、個々の機能に合わせて職員の見守りの下、楽しみながら行われている。また、行事等でお弁当をテイクアウトし提供したり、誕生会等でケーキや羊羹など希望に沿って提供するなど、一人ひとりの好みや力を活かしながら支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況、量を確認し、介護記録や業務日誌で共有している。月に1回、体重測定を行い、増減の観察をしている。食事量が少ない方にはご家族の協力も得ながら、好きなものを準備していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助が必要な方には適宜支援している。希望される方には歯科健診を受けていただき、治療等が必要な場合は歯科往診につながっている。協力歯科と連携し、月1回の歯科よりの助言のもと、口腔ケアに取り組んでいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者に合わせた声掛けや対応を行い、必要に応じて支援をしている。変化があった場合は情報共有、ケア方法の検討を行っている。また、ご家族とも情報共有を行い、適切な排泄用品の準備をしていただいている。	1人ひとりの排泄の習慣や身体状態を理解し、トイレまでの移動やズボンの上げ下ろし、パット汚染時の交換などできる範囲で見守り誘導するなど、さりげない声かけと羞恥心に配慮するなど、自立に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の乳製品の提供と、適宜果物を提供している。水分摂取が少ない方はご家族の協力も得ながら好きな飲み物を準備していただいている。1日の中で体操や歩行など体を動かす機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り、入居者の習慣や希望に沿った入浴、同性介助を行っている。安全な入浴ができるよう入居者に合わせた補助具を使用し、環境を整えている。入浴剤等を使用し、楽しめる工夫もしている。	入浴時間など設定されているが、1番浴の好きな方は1番浴と、可能な限り入居者の習慣や希望に沿うよう入浴支援を行っている。また、同姓介助なども柔軟に対応し個々にそった支援にも努めている。浴室内は明るく入居者の状態に合わせた補助具も整備されており、安全に入浴できる環境を整えている。季節を感じられるよう入浴剤を使用したり、浴槽にゆずを浮かべるなど楽しめる工夫もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターン等を考慮し、必要に応じて午睡の時間を設けている。夜間の安眠につながるように、日中の活動量を増やしたり、外気浴等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後のお薬情報はその日のうちに職員で情報共有している。その後は個人ファイルにて保管し、いつでも確認できるようにしている。お薬ケースにも薬の用量を記載し、確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や趣味をお聞きし、毎日の生活の中で役割や楽しみを持って過ごしていただけるように支援している。また、行事や外出等でも入居者の楽しみごとを取り入れ、気分転換が図れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出が難しい状況だったが、受診はご家族と出かけられる機会となった。ホームではウッドデッキで過ごしたり、施設周辺の散歩、ドライブへ出かけるなど外へ出るように努めた。季節の作品を作成したり、日々の様子や行事の写真を撮り、毎月ご家族様に写真付きのお手紙で様子を伝えている。	コロナ感染流行とともに開設となり地域への買い物や家族との交流も制限の中、施設周辺の散歩やドライブ、お店の空いている時間を確認し一緒におやつを買いに出かけるなど工夫を凝らした外出支援が行われている。受診を通し、家族と出かけられる機会となっている。コロナ感染症が5類に移行となり、外出の幅を広げ「自宅へ帰りたい」という要望も聞き入れるなど家族協力の下柔軟な対応をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の運営上、入居者に金銭の所持は原則ご遠慮いただいている。コロナ禍で外出制限をしていたため、買い物ができている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時はご家族に電話をかけていただいている。ご家族に便箋やハガキを準備していただき、入居者本人からの手紙を送っている。年賀状は入居者本人からも書いていただき、ご家族へ送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の花を飾ったり、観葉植物を栽培している。ウッドデッキにはイスとテーブルを置いている。畑やプランターで植物や野菜を育てている。リビングの壁面には入居者と一緒で作成した季節の作品等を飾っている。	共有空間は開放的で明るく、壁面には利用者と作成した作品が飾られ季節を感じることができる。両ユニット共有のウッドデッキでは、隣接する小学校の子どもたちや運動会を眺めることができたり、利用者が植えたミニトマトや朝顔などの草花へ水やり当番が水を撒くなど日常の役割や、収穫する楽しみなど、日々楽しく過ごす工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士でテーブルを囲んで話をしたり、ソファーに座ってテレビや外の景色をみる場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みのものなどの持参をお願いしている。本人と家族で居心地の良いレイアウトを相談して考えたり、じゅうたんに敷き、冬場はこたつを置く、テーブルやテレビを置くなど本人が心地よく過ごせる環境になるよう配慮している。	居室内は、使い慣れたテレビ、家具、家族写真など馴染みの物や生活に必要な品々、思い出の品物等を自由に持参できる。また、個々の能力を活かし、その人らしく生活が継続できるよう職員と一緒にシーツ交換や掃除機を掛けるなど環境を整え、自立した生活が送れるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室前には大きな表札を貼ったり、大きなカレンダーを作成したり、トイレ等の場所の説明書きを見えやすい場所へ掲示している。		